

STEP — UP

平成24年度 第2号3月
大田区立幼児教育センター
幼児教育担当(5744-1618)

1年があつという間に過ぎて行くように感じます。年明けには、大雪に立ち往生する大人たちの横で、子どもたちが笑顔で雪遊びに興じる姿が見られました。もうすぐ新たな子どもたちとめぐり合う季節がやってきます。今号では、幼児教育センターがかかわった保幼小関連事業の様子をご紹介します。

1 夏に学ぶ 保幼小連携合同研修会(7~8月) 一保・幼・小の滑らかな接続に向けて一

	指導するにあたり困ったこと	教師・保育者の指導と工夫
児童期	<ul style="list-style-type: none"> ○話が聞けない。 <ul style="list-style-type: none"> ・一斉では言葉や指示が入らない。 ・最後まで聞けない、集中しない。 ○必要なことを言えない。 <ul style="list-style-type: none"> ・単語で言うため伝わりにくい。 ・語彙が乏しい。 ・意思、感情を言葉で表せない。 ○生活習慣が身に付いていない。 <ul style="list-style-type: none"> ・身支度、着替え、準備、片付けがスムーズにできない。 ・時間の切り替えができない。 ・手先がうまく使えない。 (鉛筆、箸、スプーンの持ち方と使い方。紐結び、ボタンがけ、靴の脱ぎ履き等々。) ・午後に寝てしまう児童がいる。 ・給食では偏食、少食、時間がかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆入学前に、保幼での児童の様子を把握する。 ☆保幼での育ちを大切に、引き継いでいく。 ☆個別対応を心がける。スモールステップを大事にする。 ☆スタートカリキュラムを用いて、授業への関心がもてるよう授業の組み立てを工夫する。 <div style="display: flex; align-items: center;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊びや指人形などで気持ちを集中させてから授業を始める。 ・指示の言葉は短く分かりやすく伝える。 ・具体物や写真、絵、図などを用い、視覚に訴える工夫をする。 ・活動の手順を図などで表示し、見通しをもたせる。 ・手先を使う作業やゲーム的な要素を取り入れる。 ・時間割掲示やタイマー使用などで時間の見通しをもたせる。 ・全体指導の後、必要に応じて個別指導する。 ・「よい。悪い。」をはっきり知らせる。同時に自分で気付くような指導をする。 ・給食は無理せず慣らしていく。また、食育指導も行う。 <p>☆認められる機会をつくり、自己有用感がもてるようにする。 ☆就学前の保護者会を含め、保護者の気持ちを受け止めながら、小学校教育への理解と協力を求める。</p>
幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ○話が聞けない。 <ul style="list-style-type: none"> ・一斉、または全体での指示が通らない。 ・集中時間が短い。姿勢が維持できない。最後まで聞けない。 ・話に割り込む、話し続ける。 ・友達の言動につられやすい。 ○必要なことを言えない。 <ul style="list-style-type: none"> ・単語で済ませようとする。 ・思いや気持ちを言葉にできない。 ○生活リズムが乱れている。 ○生活習慣が身に付いていない。 <ul style="list-style-type: none"> ・衣服着脱の手順が分からない。 ・偏食が多く、食事に時間がかかる。 ・忘れ物、落し物が多い。持ち物の整理、身の回りの始末ができない。 ・箸の持ち方が身に付かない。 ○就学に不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆話を聞こうとする姿勢や態度を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌、手遊び、小道具などで、関心を引き付けてから話を始める。 ・指示や説明は、写真や絵などの視覚に訴えて分かりやすくする。 ・必要な幼児には、全体への話が聞けているかを確認し、聞こうとする気持ちにさせる。 ☆生活習慣や生活に必要な技能は、日々繰り返す行うことで身に付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲が流れている間に片付けるなどの工夫をする。 ・時間を意識して動くよう、時計や活動の絵などを掲示する。 ・遊びの中で手先を使う活動を行い、技能を育てる。 ・毎日の習慣として挨拶を交わし、よい姿勢を意識させる。 ・就学に向けて生活の仕方を変えていく。(上履き使用、昼寝中止など) ☆食生活は無理をせず、食への関心を高めながら少しずつ食べられる物を増やしていく。 ☆小学校との連携・交流を計画し、保幼から小学校へのスムーズな移行につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の小学校体験、小学校生活について話を聞く機会をつくる。 ・要録や支援シートを活用し、保幼での育ちをつなげる。

※研修協議会の話し合いの内容を抜粋しました。

2 秋に学ぶ 生活規範意識向上講座(9~11月)

調布・池上・蒲田・大森の4地区で生活規範意識向上講座が開かれました。保育園・幼稚園の保育者、小学校・中学校教諭、各機関の保護者や地域の児童館職員が一堂に会し、「子どもの規範意識を育てるには」というテーマのもと、講話の聴講と協議会を行いました。

参加した保護者の方々から寄せられた感想の一部をご紹介します。

※ 講話や協議会の内容については、別途平成24年度の報告書に掲載予定です。

<協議内容>

- 子どもの規範意識を育てるために何をすべきか。
- 乳幼児期に育てておきたいこと、大事にしたいこと。
- 小学生・中学生の時期に育てておきたいこと、大事にしたいこと。
- 自分が子どもに示したいと考えている姿。

<保護者の感想>

- 様々な立場の人たちと意見交換することで、いろいろな視点がダイレクトに分かり、自分だけでは気が付かないことも発見できた。
- 話し合うことで教職員と保護者が同じ思いをもっていることが分かった。
- 子どもの態度に考えさせられていたが、講話を聞いて「自分がぶれていた。」と思った。
- 言葉で伝えるだけでなく、大人が見本となるように頑張ることが大事だと思った。
- 親だけでなく、地域の方々も皆で見ていることを子どもが自覚すれば、犯罪も減っていくのではないか。

3 就学に備える

◇保幼小地域連携協議会◇

就学を目前にした2~3月、14地域で保幼小の協議会が開催されました。六郷地域では、保育園・幼稚園側から「年長児を小学校に送り出すにあたり心配なこと」について、小学校側からは「受け入れに際して心配していること、入学当初に困惑すること」について話が出され、接続期の幼児・児童の成長や発達の特徴、双方の機関が行っている指導の工夫などを協議しました。互いの教育についての相互理解が深まりました。

4 保育者が学びの連続性の理解を深める

◇幼保合同研修会◇

幼保合同研修会は、幼稚園、保育園の保育者が一堂に会し保育力向上を目的として、年5回実施されています。

今年度は、研修の一つに「小学校への滑らかな接続に向けて(連携・交流活動と学びの連続性を考える)」というテーマを設けました。「幼児教育と小学校教育との違い」を知り、「双方の教育をつなぐ生活科」について学びました。

5 園児の憧れと小学生の成長の自覚を促す

◇保幼小交流 一異年齢の触れ合い◇

多くの地域では、年長児が就学前に小学校を訪れたり、展覧会や学芸会などの行事を見に行ったりするなどの交流が行われています。幼児教育センターには、保幼小連携合同研修会をきっかけにして、保育園・幼稚園側から、また小学校側から、新たな交流を望む声が寄せられています。

今年度、当センターは、新たに交流を始めたり、計画的な交流を行ったりした下記の保育園・幼稚園・小学校の交流場面取材させていただきました。ご協力ありがとうございました。

小池小学校と
小池保育園
ポピンズナーサリー長原

洗足池小学校と
大岡山ルーテル幼稚園
千束保育園
洗心保育園
洗足池保育園

大森第五小学校と
大森北六丁目保育園

羽田小学校と
羽田保育園
弁天橋保育園

馬込第二小学校と
大森みのり幼稚園
南馬込保育園

馬込小学校と
南馬込保育園
南馬込第二保育園
おたみん家の家保育園

中萩中小学校と
本羽田保育園
第三蒲田保育園

交流のコーディネーターのご希望がありましたら、幼児教育センターまでご連絡ください。